

目 次

まえがき

序 章	地域福祉のあゆみと到達点	井岡 勉	1
1	基本視点		1
2	地域福祉の前史（戦前）		1
3	地域福祉の形成・展開		4
4	到達点と問題傾向		18

第 1 部 理論編

地域福祉の視角を問う

第 1 章	人権志向の自治力の向上指標	加藤 博史	25
	——地域福祉の方法理念と“健全”度および取り組みへの提言		
1	全体世界の中でのコミュニティの位置取りと機能		25
2	地域福祉は何を方法理念とするのか		26
3	地域福祉の取り組み方略		34
第 2 章	住民主体に求められる要件	竹之下典祥	37
	——草の根地域福祉モデルを岩手県旧沢内村から		
1	住民主体要件の概観		37
2	住民主体を阻害するもの		38
3	自然環境と寄り添ってきた日本人の暮らし		40
4	草の根地域福祉モデル岩手県旧沢内村		42
5	草の根地域福祉——内発的發展による自律の生起と運動		45

第3章 “住民主体”の視点からみた社会福祉協議会

岡野 英一 50

—— “当事者性” “直接参加性” “協働性” の地域実践

- 1 社会福祉実践と「住民主体」志向の誕生 50
- 2 「専門職化」の進展と「住民主体」との拮抗 51
- 3 「住民主体」言説に秘められた二面性 53
- 4 住民の主体的活動が生み出すものは何か 56
- 5 住民主体の地域福祉レジリエンス（復元する力） 57
- 6 福祉が主流の民主主義社会（市民社会）を創る 59

第2部 政策編

地域福祉の諸相と政策を問う

第1章 あらためて“地域福祉”を問いなおす — 竹川 俊夫 65

——草の根からの再構築の道

- 1 今なぜ地域福祉の「再構築」が必要なのか 65
- 2 1990年代以降の地域福祉理論の変化 66
- 3 地方分権改革と地域福祉の現状 71
- 4 地域福祉の隘路を問う 78
- 5 草の根からの地域福祉再構築の道 81

第2章 地域福祉の問題情況 — 木下 武徳 94

——貧困を基底として

- 1 貧困対策における地域福祉への期待 94
- 2 近年の貧困問題の拡大と福祉問題 95
- 3 貧困対策と地域福祉 97
- 4 貧困対策における地域福祉のあり方 99
- 5 貧困対策における地域福祉と住民自治 102
- 6 住民自治を基盤とした地域福祉へ 104

第3章	基礎自治体における地域福祉政策と地域福祉計画の可能性	松木 宏史 107
	—誰のための、何のための「地域福祉計画」策定か	
1	地域福祉の「主流化」と「地域福祉計画」	107
2	誰のための、何のため「地域福祉計画」か	110
3	「くらしの声に耳を傾ける」地域福祉計画策定	111
4	行政が後押しする地域福祉活動	114
5	地域福祉計画を「空洞化」させないために	117
第4章	地域包括ケアの課題	田中希世子 120
	—ソーシャルワークからみた協働のネットワーク	
1	地域の暮らしを支える専門職＝ソーシャルワーカー	120
2	地域包括ケアシステム—ますます求められる住民のチカラ	121
3	ソーシャルワーカーが認識すべき課題	123
4	ソーシャルワークの底ヂカラ	125
5	ソーシャルワーカーとして必要な視点とは	129

第3部 実践編

実践からみえてくる地域福祉の新しい力

第1章	住民主導型ボランティアセンター運営から考える「住民主体」	土田恭仁子 135
1	住民主導型ボランティアセンターとは何か	135
2	地域福祉における「ボランティアセンター」の役割	135
3	市社協における住民主導型ボランティアセンターのあゆみ	136
4	住民主導型ボランティアセンターを支える社協の役割	141
5	住民主導型ボランティアセンター運営から考える住民主体の一つの形	145

第2章	大都市の中での地域福祉の推進 ————— 寺田 玲	147
	— 京都市における小地域福祉活動の支援を軸に	
1	京都市内の小地域福祉活動支援のあゆみ	147
2	市・区社協の業務拡大	151
3	地域福祉の新段階下における展開	154
第3章	相談からはじまる地域福祉活動 ————— 山口 浩次	161
	— 「聴く」が「効く」	
1	大津市社会福祉協議会の相談活動	161
2	相談現場から生まれた実践	162
3	「プロジェクト」をどう位置づけるのか	167
4	市社協職員のモチベーションを高めるには	169
5	市社協の新たな課題と使命	170
第4章	生活支援と福祉コミュニティの形成 — 加納 光子	173
	— 改正精神衛生法の時代の大阪府保健所の実践	
1	福祉コミュニティ	173
2	保健所地域精神保健医療福祉実践と生活支援	176
3	福祉コミュニティを形成・推進するもの	182
第5章	若年貧困層を地域の一員に ————— 小田川華子	185
	— 漂流と定住を超えて	
1	住まいと地域福祉	185
2	定住と漂流	187
3	草の根セーフティネットへの期待	192
第6章	地域福祉拠点としての福祉施設 ————— 片岡 哲司	196
	— 孤立や制度の間に対峙する実践からその可能性を探る	
1	福祉施設への批判と新たな動き	196
2	実践①— 福祉施設の共同事業で制度の狭間に挑む	198
3	実践②— 地域と施設が連携して「孤立」を防ぐ見守りの仕組みづくり	202

4	福祉施設の地域福祉拠点としての可能性と限界	206
第7章	ひとと自然、歴史と文化が育つ地域社会 — 大友 信勝	209
	— 岐阜県美濃白川共生センターの取り組み	
1	地域創生へのオルタナティブ	209
2	社会福祉法人と地域貢献	210
3	島地区利活用プロポーザルにおけるまちづくりの視点	213
4	美濃白川共生センター設置の視点と「元・スパランド」	214
5	美濃白川共生センターの主な事業と特徴	215
6	飛騨川あいらんど公園と飛騨川自然農園	219
7	プロポーザルで実現したい福祉のまちづくり	220
終 章	地域福祉の展望 ————— 井岡 勉	224
	— 地域福祉の草の根からの創造に向けて	
1	基本視点	224
2	地域福祉推進の方向性と課題	227

あとがき